今回のテーマ　　　～　弘前市大規模経年調査　ネット依存深刻　　　インスタに新機能　～

2019.７.２2

４９号＆１９号

子どものネットリスク教育研究会（兼青森支部）　ニュース

編集：本間　史祥・大谷　良光

　学校では夏休みに入ります。夏休み中は生活リズムが乱れ、ネット・スマホに依存する傾向が高まります。子どもたちに声かけしながら、夏休み明け元気に登校できるように促したいですね。

小４～６の３．６％、ネット依存深刻・弘大医学部　経年調査

　弘前大学大学院医学研究科附属子どものこころの発達研究センターが**2016年度**に青森県弘前市市内の国公立全小学校の４～６年生と全中学校の生徒を対象に行ったインターネット使用状況調査で、使用時間を自分でコントロールできないなどの不適切使用の問題がある小学生は全体の**13.0％**おり、**3.6％**は生活に深刻な影響を与えるほど依存度が高い可能性があることがわかりました。学年があがるにつれ、問題を抱える子どもが多くなり、中学１年から２年にかけて不適切使用の割合が上昇したようです。

　「ネットの利用時間を減らすことに失敗してしまう」、「ネット利用が原因で家族や友人との関係が悪化している」などの八つの質問項目で、国際的な基準に合わせて五つ以上の該当項目があれば「依存的使用者」、三つ、四つであれば「不適切使用者」、二つ以下であれば「適切使用者」と分類しました。

　小学校４～６年生全体で9.4％が「不適切使用者」3.6％が「依存的使用者」となった。中学校全体では15.8％が「不適切使用者」7.1％が「依存的使用者」でした。

　**2017、18年に行った経年調査**で、小学４年生時で使用状態に問題があった児童でも１、２年後は使用状態が改善する子どもが多くいたが、中学１年時で問題があった生徒はあまり変化がなく、常態化の傾向が読み取れました。経年調査を行うことで、子どもたちを救うための手立てを考えるきっかけとなる調査といえます。ただ、調査の全体が公表されていませんので、調査報告書の完成を待ち、センターに連絡をとってみようと思います。

群馬大学社会情報学部伊藤賢一先生の論文「小中学生のネット利用と生活満足度」の経年調査からもわかるように、学年があがった段階でネット依存傾向から脱出をすることが非常に難しいことがわかります。ネット端末を多様化していますので、ネット利用＝スマホということがいえませんが、小学校の早い段階及びその保護者へのネットリスク啓発の必要性を改めて感じました。　東奥日報より

https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20190703-00000003-webtoo-l02&pos=5（最終アクセス：2019年7月15日）

インスタグラムにネットいじめ予防の機能追加　不快なコメントを投稿しようとするユーザーに再考促す

　オンライン上でのいじめを防止するためにインスタグラムが７月８日、新しいツールの提供を開始しました。例えば、ユーザーが「お前はとてもブサイクでバカだ」と入力すると「本当にこれを投稿しますか」という通知を受けることになる。この判断についてはＡＩが判断し、今まで蓄えられた膨大なデータをもとにコンピュータ自身が判断することになるようです。

　さらにいじめ加害者側の投稿を見えなくする「Restrict（制限）」機能もテストされています。これはなんとなくこの人の投稿を見たくない、いつもこの人からの投稿は気分が良いものではないというコメントを制限することで、見えなくする機能です。この機能の画期的なところは制限された側が気づかないこと、インスタを見ているのか、ダイレクトメッセージを読んだかどうかの表示もされません。

　直接ブロックしてしまうと相手を刺激してしまいます。「相手に知られず」というところがポイントです。中高生の利用率が高いＳＮＳが高い技術力を使ってこのような対策を打ち出すことは一つの対策といえます。

Livedoor news

https://news.livedoor.com/article/detail/16756600/(最終アクセス：2019年7月21日)